

みずほマーケット・トピック (2019年7月12日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

筆者出張のため、誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

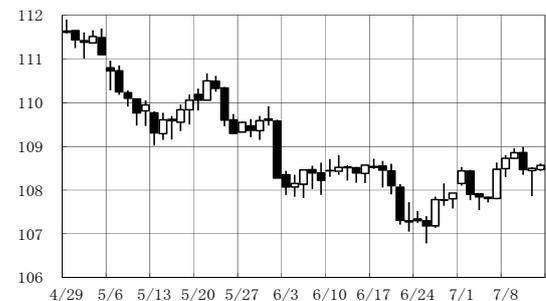
1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は方向感の定まらない展開。週初8日、108円台半ばでオープンしたドル/円は、前週末の米6月雇用統計の良好な結果を好感した流れを引き継ぎ、米金利上昇も相俟って108円台後半まで上昇。翌9日にかけてもドル買い優勢地合いの中、翌日にパウエルFRB議長の議会証言を控えポジション調整の動きも散見され、ドル/円は109円近辺まで上値を伸ばした。10日には、ドル/円は一時週高値となる108.99円をつけるも109円乗せには至らず、パウエル議長の議会証言がハト派な内容であったほか、FOMC議事要旨においても多くのメンバーがより強い利下げの根拠を認識したことが明らかになると米金利が低下し、108円台前半まで急落した。11日にかけても前日の流れを継続する中、イラン籍船舶がホルムズ海峡で英タンカーに接近したとの報道を受けて地政学リスクも意識され、ドル/円は一時週安値となる107.86円まで値を下げた。その後は、米6月消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回ったほか、NYダウ平均が最高値を更新する中で米金利上昇が上昇し、ドル/円は108円台前半まで買い戻された。本日のドル/円は、108円台後半で上昇する動きがみられている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて上昇する展開。週初8日に1.12台前半でオープンしたユーロ/ドルは、前週末の米6月雇用統計の良好な結果を受けたドル買いや独5月鉱工業生産の悪化を背景に上値重く推移。9日には、伊5月小売売上高が市場予想以上に悪化したことや、ドルのショートカバーが継続する中、ユーロ/ドルは一時週安値となる1.1194まで値を下げた。翌10日は、ハト派なパウエル議長の議会証言を受けたドル売りに、ユーロ/ドルは1.12台後半まで上昇し、11日にかけてユーロ/ドルは一時週高値となる1.1285まで値を伸ばした。しかし、その後発表された米6月CPIの良好な結果を好感したドル買いに1.12台半ばまで反落し、本日のユーロ/ドルは1.12台後半で方向感に乏しい推移が継続している。

今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		7/5(Fri)	7/8(Mon)	7/9(Tue)	7/10(Wed)	7/11(Thu)
ドル/円	東京9:00	107.82	108.48	108.73	108.93	108.34
	High	108.64	108.81	108.96	108.99	108.53
	Low	107.79	108.28	108.68	108.35	107.86
	NY 17:00	108.48	108.73	108.86	108.47	108.50
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1286	1.1228	1.1216	1.1204	1.1259
	High	1.1287	1.1234	1.1219	1.1264	1.1285
	Low	1.1208	1.1207	1.1194	1.1202	1.1245
	NY 17:00	1.1226	1.1214	1.1208	1.1250	1.1256
ユーロ/円	東京9:00	121.68	121.80	121.95	122.05	121.97
	High	121.92	121.94	122.13	122.31	122.13
	Low	121.61	121.53	121.86	121.99	121.63
	NY 17:00	121.81	121.92	122.00	122.03	122.09
日経平均株価	21,746.38	21,534.35	21,565.15	21,533.48	21,643.53	
TOPIX	1,592.58	1,578.40	1,574.89	1,571.32	1,578.63	
NYダウ工業株30種平均	26,922.12	26,806.14	26,783.49	26,860.20	27,088.08	
NASDAQ	8,161.79	8,098.38	8,141.73	8,202.53	8,196.04	
日本10年債	-0.17%	-0.15%	-0.15%	-0.13%	-0.14%	
米国10年債	2.03%	2.05%	2.07%	2.06%	2.14%	
原油価格(WTI)	57.51	57.66	57.83	60.43	60.20	
金(NY)	1,400.10	1,400.00	1,400.50	1,412.50	1,406.70	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、17日(水)に地区連銀経済報告(ページブック)が公表される。6月雇用統計の内容を考慮すれば、前回報告(6月5日公表、4月から5月中旬の経済活動が対象)同様に、タイトな雇用環境が確認されそう。一方で、対中追加関税第3弾の発動後の期間が対象であることから、関税による経済面での不透明感の強まり等が懸念される。また、今晚にエバンス・シカゴ連銀総裁が講演する予定。16日(火)には、ポステック・アトランタ連銀総裁が同連銀開催のイベントで質問に答えるほか、エバンス総裁がメディア主催のイベントで講演する。18日(木)には、ウィリアムズ NY 連銀総裁が講演を行う予定だ。19日(金)にはブラード・セントルイス連銀総裁が金融システムのテクノロジーと将来について講演し、ローゼングレン・ボストン連銀総裁は中央銀行の独立性を巡るパネル・ディスカッションに参加する。
- ・ 欧州では15～18日に欧州議会の本会議が開催される。先の欧州理事会(EU 首脳会議、6月30日～7月2日開催)で指名されたフォンデアライエン独国防相の次期欧州委員長就任についての承認手続きが行われる予定。有効投票の過半数(欧州議会の定員は751)が必要となるが、いまだ必要な支持をまとめ切れていないと報じられており、承認手続きは波乱含みの展開もありえそう。同氏の指名に至る過程では、まず慣例に従って議会第1会派(欧州人民党、中道右派)が候補者を擁立したものの、政治経験の乏しさからマクロン仏大統領が強硬に反対。続いて第2会派(欧州社会・進歩連盟、中道左派)が候補者を擁立も、こちらは東欧諸国の反対に直面した。こうしたなかで、マクロン大統領は議会第1会派に属し慣例上の問題を克服できそうなフォンデアライエン独国防相を擁立した経緯がある。ただし、議会第1、第2会派ともに、議会を軽視した選出過程を問題視しており、必ずしも支持で足並みを揃えているわけではないという。承認に漕ぎ着けたとしても、後々禍根を残す可能性があり、欧州の求心力低下が懸念される。また、仮に承認に至らなかった場合、もうひとつの重要人事の行方にも不透明感が生じそう。先の欧州理事会では、独出身の同国防相が欧州委員長候補に指名されるとともに、ECB 総裁候補には仏出身のラガルド IMF 専務理事が指名された。独仏は重要ポストを分け合うはずが、思惑通り事態が進まない可能性もある。

	本 邦	海 外
7月12日(金)	・5月鉱工業生産(確報)	・ユーロ圏5月鉱工業生産 ・米6月PPI
15日(月)	休場(海の日)	・米7月NY連銀製造業景気指数
16日(火)	-----	・独7月ZEW景気期待指数 ・米6月小売売上高 ・米6月設備稼働率 ・米7月NAHB住宅市場指数 ・米5月対米証券投資 ・米ページブック
17日(水)	-----	・G7財務相会合(フランス、～18日) ・ユーロ圏6月CPI ・米6月住宅着工件数 ・米6月建設許可件数
18日(木)	・6月貿易収支	・米7月フィラデルフィア連銀景況指数 ・米6月景気先行指数
19日(金)	・6月全国CPI ・5月全産業活動指数	・米7月ミンガン大学消費者マインド指数(速報)

### 【当面の主要行事日程(2019年7月～)】

日銀金融政策決定会合(7月29～30日、9月18～19日、10月30～31日)  
 ECB 政策理事会(7月25日、9月12日、10月24日)  
 米 FOMC(7月30～31日、9月17～18日、10月29～30日)  
 IMF 世界経済見通し改訂版(7月中)

国際為替部  
 チーフマーケット・エコノミスト  
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～サプライズがあるとすれば・・・)
2019年6月13日	厳しい緩和競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか?
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ?～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも?～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカリストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキングな政策運営」
2019年6月4日	ECB政策理事会プレビュー～TLTRO3詳細発表へ～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	プレジデントQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしか買えない」状況
2019年5月20日	「1ドル=7.00」の攻防再び
2019年5月17日	週末版(円相場の需給環境について～建値通貨別でユーロ建て証券投資が過去最大に～)
2019年5月15日	景気動向指徴の「悪化」判断と増税の先行きについて
2019年5月14日	関税引き上げと通貨安～元安対抗にも限界あり～
2019年5月13日	米中協議は実質決裂へ～舞台は大阪G20へ?～
2019年5月10日	週末版(「中央銀行の独立性」とトランプの口先介入～「失言」と割り切った良いのか?～)
2019年5月9日	「相応の理由」なき投機のドル買いはいつまで続くか
2019年5月7日	追加関税騒動について～半年間の努力はどこへ～
2019年4月26日	週末版
2019年4月24日	薄水のドル高相場～賭けるべき「次の一手」は～
2019年4月23日	10連休を契機に考える休日増加の功罪 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年3月分)
2019年4月22日	円安リスクの点検～年後半は「米国 vs. 欧中」～
2019年4月19日	週末版(ユーロ圏PMIを受けて～「底打ち」しても正常化は別の話～)
2019年4月18日	ドル高を容認できない中国の經常収支
2019年4月17日	相次ぐECBの「次の一手」に関するヒント
2019年4月16日	「改善の極み」を指摘したIMF～循環的なピーク～
2019年4月15日	ECB政策理事会～階層化とTLTRO3の取り扱い～
2019年4月12日	週末版(やはり直面した「欧州らしい結末」～臨時EU首脳会議を受けて～)
2019年4月10日	IMF世界経済見通し～「副題」で見る世界経済の変遷～
2019年4月9日	円相場の基礎的需給環境～「均衡」がもたらすレンジ～
2019年4月8日	プレジデント情勢を巡るQ&A～臨時首脳会議を前に～
2019年4月5日	週末版(ドイツがけん引するユーロ圏の減速～大崩れしたドイツ製造業受注～)
2019年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(18年12月末)
2019年4月3日	ECBはマイナス金利を階層化するのか?
2019年4月2日	円高を阻む經常収支構造の変化
2019年4月1日	「恵まれた為替環境」を再確認した内閣府調査
2019年3月29日	週末版
2019年3月26日	円安リスクの点検～改めて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)
2019年3月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年2月分)
2019年3月18日	「ユーロ圏の日本化」の正しい読み方
2019年3月15日	週末版(プレジデント交渉、当面の読み方～人質戦略は奏功するのか?～)
2019年3月14日	「地方の南欧化」を想起させる業種別一律最低賃金
2019年3月13日	プレジデント、「2度目の否決」と「新たな期限」
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分) 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年12月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げできずに退任へ～)
2019年3月5日	米金利上昇&ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～
2019年2月22日	週末版
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか?～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない仏伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常态にあるのか?
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流
2019年2月8日	週末版(2018年の円相場の基礎的需給環境～対外証券投資への期待は難しそうな2019年～)
2019年2月7日	次期ECB総裁レースの現状整理
2019年2月6日	バイマン独連銀総裁も認める景気減速の現状
2019年2月5日	プレジデント交渉を巡るQ&A～今一度行う現状整理～
2019年2月1日	週末版
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを揺るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)